



アドラー心理学とモラロジ

道德科学研究センター長 犬飼孝夫

道德科学研究センターでは、三十名ほどの研究員がさまざまな学問分野の観点から、モラロジの学問的前進に向けて研究しています。現代倫理道德研究会という公開研究会を月にほぼ二回のペースで開催し、毎回二名の研究員が発表し討論を行っています。このほか、廣池千九郎研究会、研究センターゼミ、一月に柏で二月に大阪で開催するモラロジ研究発表会を通じて研究の成果を発表するとともに、学術雑誌『モラロジ研究』を年に二回発行し、研究成果を論文や研究ノートの形で内外に

向けて発信しています。こうした研究の内容を、できるだけ分かりやすく皆様にお伝えするという趣旨で、今号の『所報』から、各研究員の研究テーマをエッセイ風にまとめ、シリーズ記事として掲載することになりました。時には研究員へのインタビュー形式の記事となる場合もあります。まだ研究の途上にもあり、中間報告的な記事になることもあるかと思えます。今回のシリーズ記事が、生涯学習活動の活性化に向けて、少しでもお役に立つことができれば嬉しく思います。

「アドラー心理学」という言葉をお聞きになったことのある方は多いのではないのでしょうか。これは、オーストリア生まれの心理学者・精神科医であるアルフレッド・アドラー（一八七〇～一九三七）が提唱した心理学理論です。アドラー自身は自分の理論を「個人心理学」と呼んでおり、仲間らと共に設立した学会にこの名前をつけました。一九一三（大正二）年のことです。アドラーはウィーン市内に多くの児童相談所を開設しました。また、成人教育センターやウィーン師範学校付属教育研究所の教授としても活躍しましたが、一九二〇年代末に活動の場を米国に移

し、英語で出版した著作がベストセラーになりました。日本でアドラー心理学への関心が高まったのは、長年にわたりアドラー心理学を研究してきた哲学者の岸見一郎氏とライターの高賀史健氏による共著『嫌われる勇氣——自己啓発の源流「アドラー」の教え』（ダイヤモンド社、二〇一三年）が出版されてからでしょう。本書は一三五万部を超える大ベストセラーとなり、その続編（『幸せになる勇氣』）の売り上げも三七万部を超えています。このほか、アドラー心理学に関する本や雑誌が多く販売されています。アルフレッド・アドラーと廣池

千九郎（二八六〇～一九三八）は、同時代を生きた人です。廣池は『道徳科学の論文』の中ではアドラーとその個人心理学については論じていませんが、一九三五（昭和十）

年六月に、道徳科学専攻塾の本科生および別科生に対する講義の中で、「アドラー博士がコンプレックスという学説を発表しておる。……この人はモラロジは知らんが、科学的に書いておる」と、アドラーについて言及しています。この口ぶりからは、廣池がアドラーの理論に共感し、肯定的に評価していたということが読み取れそうです。

アドラーによれば、人は三つの主要な絆きずなの中で生きています。一つ目は地球との絆、二つ目は他者との絆、三つ目は異性との絆です。この三つの絆から「仕事の課題」「交友の課題」「愛の課題」が生じ、アドラー心理学ではこの三つを合わせて「人生の課題」と呼んでいます。これは、仕事に関わる人間関係、友人との人間

関係、配偶者との人間関係ということもできます。

では、この「人生の課題」をうまくこなしていくためにはどうすればよいのでしょうか。アドラーは、「人生は仲間に関心を持ち、全体の一部であり、人類の幸福に貢献することである」と考

えるべきであると述べています（『人生の意味の心理学（上）』二三頁）。また、「人生の課題」を解決するためには「協力する能力」が必要であり、「あらゆる課題は、人間社会の枠組みの中で、人間の幸福を促進する仕方で克服されなければならぬ」であり、「人生の意味は貢献である」と理解する人だけが、勇気と成功の好機を持つて、困難に対処することができる」と述べています（同書三二頁）。

このように、アドラーは、私たちは皆、共に地球に暮らす「仲間」



アルフレッド・アドラー(1870～1937)

であるという宇宙的スケールの仲間意識を持つことが大切であり、こうした仲間に対して「関心」を持ち、「協力」すること、すなわち「人類の幸福」に「貢献」することが「人生の根本的な意味」であると考えたのです。このような全人類的な絆の重視は、アドラー心理学において「共同体感覚」と呼ばれています。

アドラーが提唱した「共同体感覚」という概念は、「慈悲寛大自己反省」という心構えで道徳を実践することによって、世界人類の生存、発達、安心、平和、幸福の実現をめざした、廣池の思想

と通底するといえるのではないのでしょうか。

また、アドラー心理学では、「人生の課題」から逃げずに、それに取り組むための自信が持てるよう、人として対等な視座から他者を支援することを「勇気づけ」と呼んでいます。アドラー心理学の「勇気づけ」という実践的な理論には、モラロジに基づく生涯学習活動にも役立つ点が多くあるようです。今後、さらに研究を進めたいと思います。

推薦図書

アルフレッド・アドラー著、岸見一郎訳『人生の意味の心理学（上・下）』アルテ、二〇一〇年。
野田俊作『勇気づけの方法』アドラー心理学を語る4』創元社、二〇一七年。
岸見一郎『アドラー 人生の意味の心理学』変われない？ 変わりたいくない？』NHK出版、二〇一八年。